

子どもの発達特性と保護者へのアプローチ



講師: 岡崎 達也さん(公社)京都市児童館学童連盟事務局主任厚生員統合育成担当



今回の研修は、①保護者支援の在り方、②保育場面の保護者支援、③就学移行支援、④虐待と発達特性、をポイントにお話します。

発達障がいの子どもは、脳の情報処理の仕方が、定形発達の子どもと違うため、気になる行動となって表れることがよくあります。育てるのにコツがいる子どもなのだと捉え、子育てを頑張っている保護者を理解し、その苦労をねぎらうことが保護者支援の基本となります。

場面による子どもの姿の違いや保護者と保育者の思いのずれから、互いに責任転嫁してしまうという危険性もあります。子どもの困りを支援するためには、互いの状況や思いを理解し合い、情報を共有し合う必要があります。

関係機関へつなげる際も、子どもの問題点を指摘することより、保護者の子育ての困難さに共感し、相談することによって、子どもや保護者の困りに対する手がかりが得られることを伝えるとよいでしょう。優先したいのは、診断よりも、その子の特性を理解しうまくつきあえる術を共に探っていく対応(支援)です。

小学校との引継ぎは、就学支援シートや保育要録等の文書で行うことが多いと思いますが、園の伝えたい情報と学校の知りたい情報に違いがある場合も見られるので、情報交換の場が設けられると良いと思います。また、学童保育への情報提供もお願いしたいと思います。

まずは、園の職員みんなで、その子どもの長所や特性について共通に理解して援助できるよう工夫しましょう。

DVD貸出中

アンケートより



健診の時期までのアプローチの仕方と、就学に向けてのアプローチを、今の時期に知ることができたので、とても良かったです。すぐ療育につなげようとしてしまっていたので、まずは、どのような相談機関があるかを知りたいと思います。

何のために支援するのか。発達障がいの特性を治すのではなく、日々の生活をしやすいするための支援だということを学びました。TASP や CLASP という方法も初めて知りました。



小学校で働いているので、保育士の先生方が受ける研修を受けられたのはとても新鮮でした。様々な面で集団の中で過ごすことが難しいのではないかと見受けられる子どもが、年々増えてきているように感じます。保幼小それぞれの立場の先生が同じ研修を受けることができるのはとても良いと感じますし、それぞれ実情を踏まえた上で、今回の研修をどのように受け取られたか交流してみたいと思いました。

その他、動画配信研修について、受講しやすさや繰り返し見られて理解が深まるという御意見を多数いただきました。今後も、子どもや保護者のために「学びたい!」という先生方の声に応え、研修方法や内容を検討していきたいと思っています。